

卒業式の前日。放課後の校庭には春の日差しを浴びて、6年生が遊んでいる姿があった。いつもは使わないジャングルジム，スライダー，砂場。いつも大好きなブランコ。友達同士で長瀬小学校で遊ぶのも最後かもしれない。去年の今頃は，休校期間中で名残を惜しむ卒業生の姿も見ることができなかった。宮城県のコロナ感染率が急上昇の中，また不安要素が増えてきたが，このひとときはホッとする。

今日は卒業式。36名の子供たちが学び舎を巣立った。コロナ禍で学習指導も行事実施も苦労があったが，6年生が落ち着いて生活してくれたおかげで本当に助けられた。そして次年度以降の学校の在り方についても6年生の姿からヒントを得たことも多かった。まさに一緒にコロナ禍を乗り越えた仲間同士のようない気持ちすら抱く。

卒業式で子供たちに話したことは「**人が想像できるすべてのことは起こりうる現実だ**」というウイリー・ガロンの言葉である。「夢」は思い続けることで実現する，というふうに言い換えられることもある。この考え方は偶然なのか，多くの思想家や哲学者，経営者も様々な著作の中で述べている。

「なるようになるさ」ではなく，自らの道を力強く切り開き，いつになるかは人それぞれだが，夢を実現させてほしい。

長瀬小学校 第136代卒業児童36名全員の未来に幸多かれと心から祈る。